

医学系研究に関する情報公開文書

研究課題名	肺がんの次世代シーケンサーにおけるクライオバイオプシーの有用性についての検討
研究責任者	日本赤十字社医療センター 呼吸器内科 刀祢 麻里
研究機関名	日本赤十字社医療センター 呼吸器内科
研究目的と意義	肺がんにおいて、EGFR遺伝子変異などのドライバー遺伝子を持つ患者さんはそれぞれの遺伝子変異に対応する分子標的薬の投与が有用であることがわかっています。ドライバー遺伝子変異の検索のためには気管支鏡検査やCTガイド下生検などで生検検査を行い、そこで採取された検体に対して、一つ一つのドライバー遺伝子に対応するPCR検査や免疫染色免疫組織染色検査が行われていましたが、最近では次世代シーケンサー(NGS)と呼ばれる一度に多くのドライバー遺伝子を検索できる検査が行われています。NGSを行うには従来の遺伝子検査と比較して大きなサイズの生検検体が望まれ、通常の生検方法では不適合となることがあります。クライオバイオプシーという検体を凍らせて採取する気管支鏡検査の方法では大きな検体が得られ、NGSにより適した検体採取が可能であると考えられています。しかし現時点ではクライオバイオプシーがNGSのための検体採取方法として有用であるかはわかっていません。そこで本研究では、クライオバイオプシーがNGSのための検体採取方法として適しているかどうかを検討することを目的としております。
研究方法	<p>●対象となる患者さん: 2019年6月～2020年3月に2019年6月から2020年3月までに、肺がんに対してNGS(保険適応で行われているオンコマインDx Targer Test マルチ CDxシステム)のためにクライオバイオプシーもしくはその他の気管支鏡検査、CTガイド下生検を受けた20歳以上の患者さん。</p> <p>●研究に使用する試料: (1)診療録 (2)画像診断(CT/MRI)</p> <p>●研究方法 通常診療の記録や画像検査の結果を用いて後ろ向きに調査します。肺がん疑いに対して受けた生検検査の種類、その診断結果、生検検体のNGSに対する適格性、NGSの結果を調べます。この臨床研究は、日常診療の中での診断について調査する研究であり、研究参加に伴う治療上の利益や不利益はありません。また参加を希望されない場合も不利益をこうむることはありません。研究に組み入れられることを希望されない方は、担当医や下記の問い合わせ先にお知らせください。その場合、データ収集や統計解析は致しません。研究結果は学会、論文で公表されます。</p>
問い合わせ先	日本赤十字社医療センター 呼吸器内科 〒150-8935 東京都渋谷区広尾4-1-22 担当者:刀祢 麻里 TEL: 03-3400-1311 FAX: 03-3409-1604